

# 平成 29 年度 岐阜県立多治見高等学校 いじめ防止委員会 議事録

日時：平成 29 年 5 月 23 日（火）

場所：多治見高校 桔梗会館 1F

## 1. 開会のあいさつ（教頭）

- ・昨年度の迷惑いじめ調査の結果は、0 件ではなかった。本人がいじめと思えばいじめである。
- ・クラス、学年、分掌、部活、保護者、スクールカウンセラーなど連携が必要であり、未然防止に努めるとともに事案が発生した際の迅速な対応が必要である。
- ・アクティブラーニング型の授業を展開しているが、この授業形態では自分の言いたいことが伝わる、聞いてもらえるという安心感が前提である。その意味でもクラスの中の間人間関係が重要である。
- ・昨年度生徒・保護者に行ったアンケートで、「学校がいじめに対する対応を行っていると思う」の割合が思ったより低かった。学校側がいじめ問題に対してしっかり対応しているということを生徒・保護者に理解してもらう必要がある。

## 2. 委員自己紹介

## 3. 学校説明

## 4. いじめ防止基本方針について

### （ア）いじめ問題に対する基本的な考え方（生徒指導部長）

【別冊『平成 29 年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止基本方針』 p. 1 参照】

### （イ）いじめの未然防止のための取り組み（各分掌長、教育相談）

【別冊『平成 29 年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止基本方針』 p. 2～4 参照】

#### ■ 生徒指導部

- ・自分を律する生徒を育成。
- ・年 3 回実施する「いじめ・迷惑調査」で早期対応につなげる。
- ・職員研修を実施することでいじめだけではなく生徒理解につなげる。
- ・LHR や情報の授業時間を通して、情報モラル指導を行い、上手に SNS 等の利用ができるよう指導する。

#### ■ 教務部

- ・全校生徒・教職員で授業規律を徹底する。
- ・アクティブラーニング型の授業では論理的にわかりやすく伝えることができずよう育成する。
- ・学習・部活等、評価をして認め合う機会を設定する。

#### ■ 進路指導部

- ・進路目標の早期指導により目的意識を育成する。
- ・進路指導を通して自分や他者を認め、尊重する精神を養う。
- ・競争の中での協力・協調の大切さを伝える。

#### ■ 特別活動部

- ・学校行事によりクラス・学年・学校全体の団結につなげ、居場所をつくる。
- ・5 月のスポーツ交流大会で、クラスで団結できてよかったと回答した生徒は 90% 以上であった。
- ・行事により、普段話せなかった子と話せるようになったという回答があった。
- ・部活動において、良好な人間関係を築かせ、豊かな人間性を育み、居場所をつくる。

#### ■保健厚生部

- ・健康や安全のために環境美化活動を生徒が主体となって取り組むことで、自主・自立ができる生徒を育成し、奉仕の精神を養う。

#### ■渉外部

- ・保護者と接する機会を通して情報を収集する。
- ・家庭でできるいじめ予防の取り組みを協議し、いじめ予防を進める。

#### ■図書視聴覚部

- ・本に触れることで多様な価値観を理解できる。そのため、本を手にとってもらいやすい環境にすることに努める。
- ・図書館が居場所になっている生徒がいるため、椅子や机の配置などを工夫する。

※年間計画について（生徒指導部長）

【別冊『平成29年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止基本方針』p. 4参照】

(ウ) いじめ問題発生時の対処（生徒指導部長）

【別冊『平成29年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止基本方針』p. 5～7参照】

(エ) 情報等の取り扱い（生徒指導部長）

個人情報には厳重に保管すべきであると法でも定められているので、それに準じて適正に取り扱っている。

(オ) 組織全体図

【別冊『平成29年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止基本方針』p. 8参照】

### 5. 質疑応答

Q：HR活動や集団行動の活動を通してコミュニケーション力・道徳心・倫理観の育成をすることになっているが、具体的にどのような活動や行動で育成しようとしていますか？

A：人権統一LHRで人権について考える機会を設定している。また、昨年度からアクティブラーニングを通してクラス内でのコミュニケーションをとる機会を設定した。文化祭では役割分担をすることで他者を認める場を設定した。

### 6. 指導・助言

#### ■スクールカウンセラー

- ・SNS等の普及により、コミュニケーションをとる方法が直接的ではなく間接的になってきた。表情が見えない分、軽い気持ちで書きこみやすい。相手がどんな気持ちで書いているのか、どのように受け止めるかという想像力が必要になっている。未然防止するためには、想像力をつける必要がある。
- ・いじめの被害者だけでなく加害者のケアも必要である。加害者の背景には軽い気持ちでやってしまった場合も考えられるが、他者から認めてもらいたいという気持ちからやってしまった場合も考えられる。周りと通常の間人間関係が築けるよう、継続的にこの先の人間形成に繋がられるよう育成していく必要がある。
- ・軽度な発達障がいをもつ生徒はコミュニケーションをとることが苦手で、周りはあまり気にしていなくても本人が気にしている場合があり、不登校になりやすい。
- ・相手がいじめだと思えばいじめであるが、人によって基準が違うので難しさを感じる。テレビでもからかいの場面がある分、「わたしはいじられキャラだから」と納得してしまう生徒もいる。

#### ■保護者代表

- ・子供は機嫌がいいときは学校での出来事を話すが、普段はあまり話さない。学校の取り組みや情報は発信していくと良い。メール配信は学校の情報を得るには効果がある。

- ・学校側がいじめに対して対策や対応をここまでしているとは知らなかった。学校側と家庭側ではギャップがあると感じた。保護者も学び合う取り組みを取り入れると良い。

#### ■地域代表

- ・高校ではいじめはあまりないと思っていた。しかしまだ精神的に大きくなっていない子もいる。そのような子に対しては行事等を通してクラスや学年の連帯感を育てることが大切で、本人自身も変わるが、周りの生徒も関係の作り方や対応の仕方などを学ぶことができる。
- ・クラスから学年へ連帯感が高まる行事があると良い。

#### ■教育相談

- ・SNS等の普及により、さらに心の成長が大切だと感じる。
- ・相手の気持ちになったときに嫌だと思ふことをしないように伝えていく必要がある。
- ・ふざけ→喧嘩→大きな事案になる可能性がある。
- ・いじめの被害者・加害者の小中での様子や家庭での様子など、その生徒の背景を知る必要がある。

#### 7. 閉会のあいさつ（教頭）

- ・以前は、例えば部活動で人間関係が崩れても、クラスに行けばそこに友達がいるので気持ちが楽になるという人間関係を作ることができていたが、最近では、ある場所で人間関係が崩れると、それが全てで、修復不可能となることが多い。難しいが、粘り強く働きかけていくことが大切である。
- ・「自分はいじめられキャラだから仕方ない」ではいけない。このような抑圧された感情がどこで爆発する可能性は十分にある。担任は背景を探り、本人に寄り添う働きかけをしていかなければいけない。
- ・生徒の背景や事情を含めて見逃さないようにするべきである。担任・学年・生徒指導等の学校全体の連携が必要である。学校として、いじめは絶対に許さないという姿勢を崩さないように対策・対応をしていく。
- ・今後も学校の取り組みや情報を発信していく。